

ちいきのなかま通信

No.93

発行日：2022年10月23日

発行者：特定非営利活動法人 ちいきのなかま



寄り添うからこそ、寄り添えない時がある…

「子どもの分野だけど、今まさに伴走型支援だな」そう感じる事が多くなりました。「人生の最後まで寄り添い続ける」ことは想定できないけれど、つながり続ける必要がある、という意味では地域子育て支援も伴走型であることを自覚していく必要がある、と考えている。もちろんひとつの事業所では実現できない。多様な職種の連携があってこそ伴走だ。自分たちが出来なくても安心して託せるネットワークや事業づくりに取り組みたい。過去に、寄り添いたいからこそ、直接の関りを薄めていった事例を思い出してみる。



【ケース1】 Yさん宅から毎日のように事情のあるAちゃんの見守りの希望。Yさんは保育園利用が可能なご家庭なのだが、自宅で育てたいとのこと。その依頼に対応しながら、ファミサポは単発短時間の対応であくまでも見守り、「保育」ではないこと。対応する人が日々変わる不安定な環境は望ましくないと伝えました。さらに、Aちゃんには集団保育が必要であること、提供会員にはお母さんの代りはできないとも伝えました。保健師さん同行での会話を試みましたが、ご家族は全部否定。結果、苦渋の判断でファミサポは支援を辞退、併行してAちゃんのごきょうだいが通う保育園の園長先生に様々な事情をお伝えして協力をお願いしました。その後、園長先生からYさん家族が生き生きと子育ての暮らしを大切にしていることの報告をいただきました。そこに至る支えは、ひとつはファミサポ利用時に関わっていた会員さんが、個人契約で支援を継続（後日に知る）してくださり、緩やかにフェードアウトしてくださった。そして、保育園。Aちゃん受入れのための体制を整え、Aちゃんが元気に育つ姿をご家族に伝え続けてくださいました。支援は当事者の幸せの為にあります。そう願ひ、寄り添うために「寄り添うことを辞退した」そんな実践となりました。

【ケース2】 障がいのあるお子さんの連日の見守りの依頼。両親はすでに別居していて、いざれ離婚。母親就労の為には特別支援学校の送迎が難しい。落ち着くまで学校を休ませ、見守りを使いたい、と言うこと。その希望は即お断りし、障がい児の学ぶ権利の大切さを伝えたところ不快な表情で立ち去られました。相談を受けた私が母親のしんどさに寄り添うというよりも、子どもの教育を受ける権利を失うことを阻止したい気持ちがあって、強い口調になったと思います。厳しい状況の母親の気持ちを傷つけた痛い経験でした。間違えている判断を止める方法をもう少し模索するべきでした。



寄り添う支援は地域の多職種の連携で実現するのだと思います。支援者一人に出来ることは嵩が知れています。私もそうですが、一つの側面から見たご家族のカタチを固定的に見てしまうことがあります。でも見えている姿がそのご家族のすべてではありません。そして子育て家庭は環境や出会いに恵まれて変わる可能性があります。その可能性を信じて、支援者として常に謙虚でありたいと思っています。



子どもの世界 マ～んなかんじ

by 蓮すけ



N056 コメントより『楽しんでくれるかな』と親子のイベントに参加すると、子どもはママにべったり、顔も上げなかったり、泣き叫んだり…

「せっかく来たのに」や「周りの人に迷惑かも」と、お子さんが人見知りだとめげそうになってしまうママも多いのではないのでしょうか？過去の私もそのひとり。

それでも、続けて参加して人と「触れ合う」機会を作っていくと我が子も思った以上に、たくましく人の中に入って行けるようになりました。子どもは人見知りしながらいろいろと吸収しているのですね。家族の人数が少ない昨今、人と「触れ合う」機会は意識して作らないといけななと感じています。これからは、人見知りしても「大丈夫よ」をたくさん伝えていきたいです。』スタッフ山崎 翠



今、山崎さんはファミサポだけでなく、産前産後ケア家事サポート事業のど真ん中で多くの子育て家庭を支えています。自身の子育て体験や出会ってきたご家族の体験を、今子育てが大変！と言う人に伝え支える立場です。産後からしばらく仕事をペースダウンした時期も含めて、続けてきたから今できることが沢山ある。まだ小中学校の子どもがいるので、思い悩むときもあるらしい。ひとつひとつを乗り越えながら、いい仕事をしてほしいと願います。このエピソードは仕事仲間としてもとても懐かしく、またほほえましく思えます。(文責：守永)

大村市で子どもの預かり事業を試験的に開始しました



今、大村市で「子どもの預かり」モニター事業に取り組んでいます。子育て支援の町、移住の町の印象のある大村市にはファミサポがありません。これは意外なことでした。多分保育園さんが充実しているのだと思います。ただ、子育ての暮らしにはちょっとした時間預かってほしいということが起きます。美容院に行きたい、歯医者に行きたい、でも預かってくれる人がいないから、あきらめちゃう、でもちょっと悲しい。その気分が憂鬱な気持ちにつながっても行きます。特に0歳～2歳の間に必要な支援です。大村市の皆さんは、1年間の間学習



会をし、アンケートをとり、研修会をして、まずは無料のモニター利用開始。預けてくださる皆さんの声で、少しずつ在宅の子育ての様子が見えてきています。今後民間だけで実施すると利用者が高負担になるので、できれば大村市がファミサポつくりませんかーと思いつつ、お手伝いしています。



協働で連続講座を開催しています。



コロナ感染によって子育ての孤立化の深刻さは増しているし、虐待リスクも増えている。私たちは感染リスクに対しての体制は整えた。孤立化や虐待リスクについて悩むばかりではなく、協働で研修会を開催することにした。ぜひ参加を呼び掛けたい。協働相手は、日ごろから交流のある「NPO法人子どもと女性のエンパワメント佐世保」さん。子育て支援事業というジャンルでの仕事をしていても、業種の中で相互にあまり理解しあえていない。そこで昨年から小さな学習会を重ねてみて、協働の研修の機会がとても大切だと気付かされた。相互に信頼関係を築くうえで大事な機会になっている。この協働の拡大を目指して、2022年度、一般社団法人長崎県民ボランティア振興基金の助成金を協働で申請、連続講座を企画している。



第一回は10/15に実施。講師の鈴木浩文さんからは、私たちのこれからの仕事に役立つ情報やメッセージをいただいた。心に残ったのは、支援者として問題を抱えた家族をどう見るか、という視点。家族や個人なりにできていること（まじなこと）に着目するとい

うこと。現場では出来ることに着目できないと、気持ちが続かないと感じている。当事者との言葉の紡ぎあいもスキルを要するところで、今後、子育て支援者には欠かせないスキルになると思う。もっと深めたいところ。

この連続の研修会では「伴走型支援」という考え方にも注目している。最近あちこちで聞く言葉で、その概念を知ると、共感できることが多々ある。

次回は11/5。ぜひ参加者を募りたい。



長崎県子育て支援の発展を促すための研修会 第三回

「私たちの子育て支援」を再評価
「今どきの」子育て支援が大切な理由

子育て支援は「家庭支援」という時代。今、子育て支援の現場は、あらゆる子育て家庭（経済的困窮・障がい児・高齢人・多様な家族のカタチなど）に繋がっている。そこは、多様な課題の子どもたちもおり、実情も異なる。多様な課題を抱えている親には寄り添って支援することが求められ、日々の実践を再評価しつつ、今後に向けて子育て支援の現場で何が出来るのか、具体的に学びます。

2022年 11月5日(土) PM13:00~15:00
長崎県男女共同参画センター「スズキ」 研修室2
参加費 会員 ¥500 (資料代) 一般 ¥1,000 (資料代込)
申込 NPO法人佐世保の空へま 申し込みフォームより
11/2締切 託児あり (無料：申し込み時)

講師：連続 第一野さん 長崎福祉大学 教授
家庭福祉社会福祉センター、長崎学院大学教員を経て2007年現在NPO法人「子育てネットワーク」を設立。
大学教員として職歴の長年、子育て支援や児童福祉推進事業の運営にも関わってきた。専ら子ども家庭福祉、視覚障害児大学大学院修士課程終了(社会福祉学)、厚生労働省社会政策審議会委員等を歴任。

「それとも別に詳しくは聞かれ、「いかにして」活動するから、聞かれない」といって多くの方に「いかにして」活動する必要がある」と、講師 第一野さんより

●これからのイベントや講座の予定●

イベント名	日時	会場	内容
子育て支援リスクマネジメント研修	11月1日(火) 10:00~12:00	清水地区 コミュニティセンター	子育て支援リスク研修 ～法的責任 講師 横田裕子弁護士
包括支援研修会	11月5日(土) 13:00~15:00	男女共同参画支援 センタースピーカ 研修室	参加費¥500 会員外 ¥1,000 託児あり無料要予約
おもちゃ整理の日	11月8日(火) 9:00頃から	ファミサポ事務所	おもちゃの消毒・整理 協力歓迎!
ぼちぼちヨガ教室	11月7日・21日 13:30から	ボランティアセン ター別館	会員¥500 会員外¥800
ぼちぼちいこか食堂	11月24日(木) 10:00ごろから	みんなの実家モン トブレア	参加費無料 要事前申し込み

編集後記

今年も「赤い羽根共同基金テーマ基金」の準備が始まっています。年末だなど感じます。大村市の動き、そして当法人としても、新規事業立ち上げのチャレンジを始めています。先日は佐世保市商工会議所さんにも相談に行ってきました。新しいことを始めるのはなんて楽しいことでしょう。地域というステージで、信頼できる仲間たちとともに、あれやこれやと泣き笑いの日が訪れますように。きんもくせいの香りに秋を感じながら、妄想と希望に胸躍る日々です。

NPO法人ちいきのなかま



入会・会員(正・賛助)会員継続のご案内
 正会員:総会議決権あり 入会金¥1,000 年会費 ¥6,000
 賛助会員:総会議決権なし 年会費¥3,000
 主な特典:各種事業会員特別料金にてご優待
 連絡先 NPO法人ちいきのなかま

携帯 090-9498-3608
 E-mail:chiikinonakama@basil.ocn.ne.jp
 HP:http://chiikinonakama.boj.jp/